

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22033		事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業				
	事業手法		☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	09:自然との共生				款	06:農林水産業費	
		施策の方向	01:鈴鹿川等源流域の保全・継承				項	01:農林水産業費	
重点プロジェクト		03:「しなやか田園都市」プロジェクト			目		06:林業振興費		
事業期間		H 26 年度 ~ R 7 年度		主な根拠法令等		みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領			

評価分類		A1	
------	--	----	--

担当部署	
部	産業環境部 子ども未来部
課	農林振興課 農林政策G・農林施設G 商工観光課 観光・地域ブランドG 子ども政策課 子ども総務G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	災害に強い森林づくりと県民全体で森林を支える社会づくりを推進するため、県が平成26年に導入した「みえ森と緑の県民税」を財源に県内全市町へ交付金が交付されており、本市においても、この財源を活用し森林保全を進めていく必要がある。	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会、市民団体、市民	身近にある荒廃した里山、竹林の再生など暮らしに身近な森林づくりに取り組むとともに、将来に継承すべき豊かな自然や森林と市民との関係が身近となる機会を創出し、豊かな自然との共生や森林の役割についての理解を深める。	里山整備等を行う市民団体等へのウッドチップの貸し出し、自然公園「やまびこ」の整備を行うとともに、森の講座により森林保全の担い手の育成を行う。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援を行い、森林保全に向けた機運を醸成する。

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
	事業計画		○事前伐採事業 ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○森の講座(チェーンソー講習) ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○森の講座 ○竹林整備支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○事前伐採事業 ○森の講座 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援 ○森林教育・木育の実施 ○竹林整備支援及び竹材の活用		
	活動実績 (計画通り実施できたか)		台風等の倒木被害により電線などを寸断する恐れのある樹木について、事前伐採を0.05ha行った。里山・竹林生活環境保全事業としてウッドチップの貸出しによる里山竹林整備0.4haを行った。森と木材のふれあい事業として森林学習などを3回開催した。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、イベント4回を開催し92人の参加者があった。		指標の開催回数は達成できなかったが、チェーンソー講習や木工工作等のイベントを2回開催し、36人の参加者があった。里山・竹林生活環境保全事業によりウッドチップの貸出しによる竹林整備0.1haを行った。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、イベント3回を開催し80人の参加者があった。		丸太切り体験や木工工作等のイベントを2回開催し、指標の講座参加者数を上回る38人の参加者があった。里山・竹林生活環境保全事業の一環として、ウッドチップの貸出しによる0.1haの竹林整備を行った。さらに、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、3回のイベントを開催し65人の参加者があった。		台風等の被害からライフラインを守るため0.14haの事前伐採を行った。森の講座を2回開催し、29人の参加があった。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、3回のイベント開催や野登山の巨杉の調査等を行った。また、市内の13校の小中学校で森林教育、公立園13園で自然保育・森林環境教育を実施した。さらに県産材の竹を使用した竹あかりワークショップを市内の3校の中学校で行った。ワークショップで制作した作品を納涼大会会場で展示した。		
	計画額	事業費	国・県支出金	6,400千円	5,566千円	4,900千円	4,317千円	1,900千円	1,550千円	17,000千円	16,301千円
			地方債	5,200千円	4,743千円	3,800千円	3,749千円	1,630千円	1,498千円	11,870千円	11,870千円
			その他		0千円						0千円
			一般財源	1,000千円	742千円	1,000千円	476千円	170千円		4,990千円	4,268千円
				200千円	81千円	100千円	92千円	100千円	52千円	140千円	163千円
	決算額	事業費	国・県支出金		5,536千円		4,258千円		1,548千円		16,281千円
			地方債		4,743千円		3,749千円		1,498千円		11,870千円
その他				0千円		0千円		0千円		0千円	
一般財源				742千円		476千円		0千円		4,268千円	
				51千円		33千円		50千円		143千円	
①期間内計画額(R4-7)		30,200千円		②期間外計画額(R8-)		0千円		①+②総計画額		30,200千円	

④指標
(C)

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
災害からライフラインを守る事前伐採事業	伐採箇所数	活動	箇所	計画値 実績値	2 2			1 1
イベント実施回数	木育、木工工作などイベント実施回数	活動	回	計画値 実績値	3 3	3 2	3 2	4 2
講座参加者数	講座参加者数	成果	人	計画値 実績値		20 36	10 38	30 29

⑤成果
(C)

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか
A	森の講座参加者数等の指標は一部目標に達しなかったものの、新たな事業として小中学校13校の児童生徒約1,000人を対象に森林環境教育、公立園13園の園児保育士約270人に自然保育・森林環境教育や中学校3校で放置竹の伐採竹を使用したワークショップを実施したことにより、豊かな自然・森林との関係が身近となる機会を創出し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図ることができた。
十分な成果を得た	

⑥課題
(C)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
豊かな自然・森林との関係が身近となる機会を創出し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図り豊かな森林を次世代に引き継ぐため、継続して取り組むことが大切である。	

⑦事業の展開
(A)

方向性	
継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
改善・見直し内容	
令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
「県民全体で森林を支える社会づくり」への取り組みとして、木育等の講座や小学校での森林環境教育、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援、市産竹を活用した竹あかりの製作、自然保育を実施できる保育士の育成に取り組む。また「災害に強い森林づくり」への取り組みとして災害からライフラインを守る事前伐採事業を実施する。	「県民全体で森林を支える社会づくり」への取り組みとして、木育等の講座や小学校での森林教育、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援、市産竹を活用した竹あかりの製作、自然保育を実施できる保育士の育成に取り組む。また「災害に強い森林づくり」への取り組みとして災害からライフラインを守る事前伐採事業を実施する。

【履歴】

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	B	B	A
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)

【評価】

1次評価者	産業環境部 農林振興課 農林政策GL 林 晃子 産業環境部 商工振興課 観光・地域ブランドGL 堀切 雅代 子ども未来部 子ども政策課 保育サポートGL 早川 美紀
最終評価者	産業環境部 農林振興課長 鳥喰 さとみ 産業環境部 商工振興課長 原 千里 子ども未来部 子ども政策課長 草川 温子

【予算】

(令和7年度予算額の内訳)	
前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	16,301千円
次年度への繰越額	0千円